



# 名古屋いのちの電話

1988年度事業報告



写真 文珠幹夫

川

母さん

川はどうして笑っているの  
太陽が川をくすぐるからよ

母さん

川はどうして歌っているの  
雲雀が川の声をほめたから

母さん

川はどうして冷たいの  
いつか雪に愛された思い出に

母さん

川はいくつになったの  
いつまでも若い春とおないどし

母さん

川はどうして休まないの  
それはね海の母さんが

川の帰りを待っているのよ

(谷川俊太郎未完詩集)

「祈らなくていいのか」より

# 電話相談に見る世相 '88

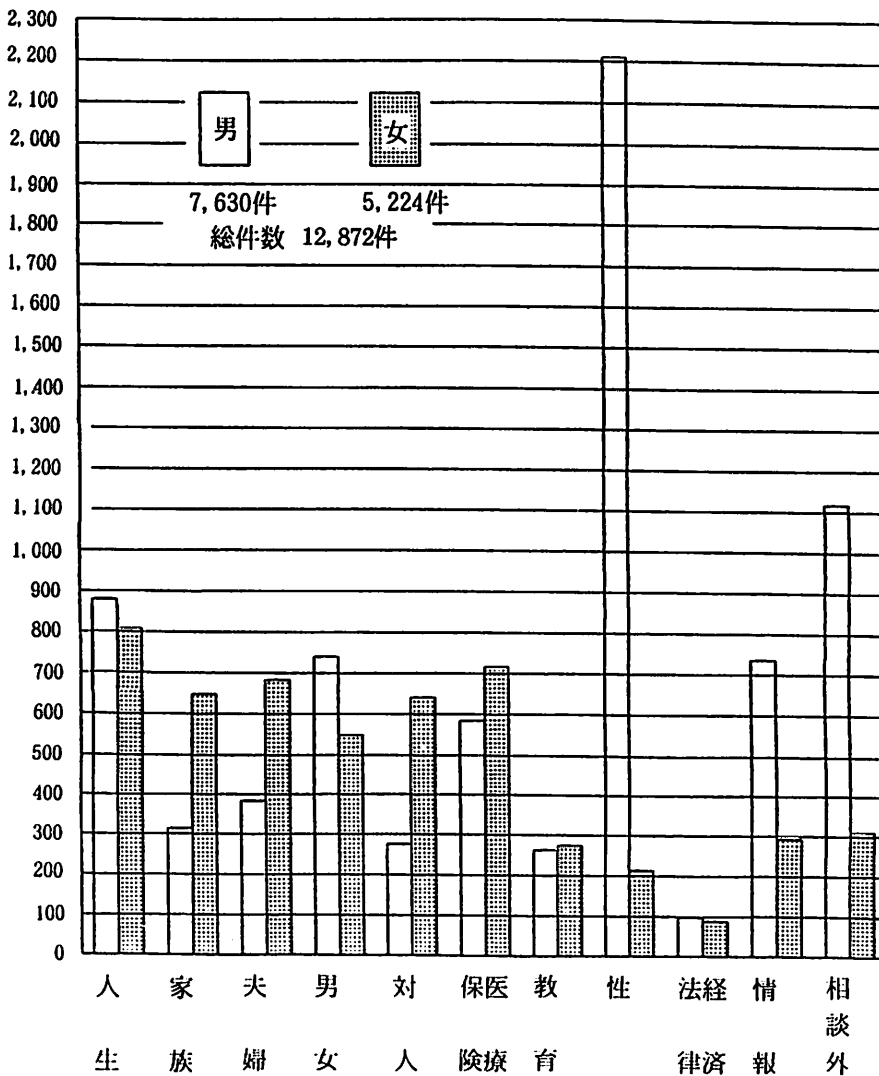
1985年7月1日の開設から、まる4年をむかえようとしています。この4年で、受信件数は開設の年の2.2倍となりました。

1988年は1年間に17,183件の相談電話を受信しました。その内、相談員と直接対話せずに切れてしまった「無言電話」4,356件をのぞくと12,872件となり、1日あたり35件の相談電話を受信していることとなります。

## 減らない悩み

相談内容男女別の相談件数

1988. 1~12月



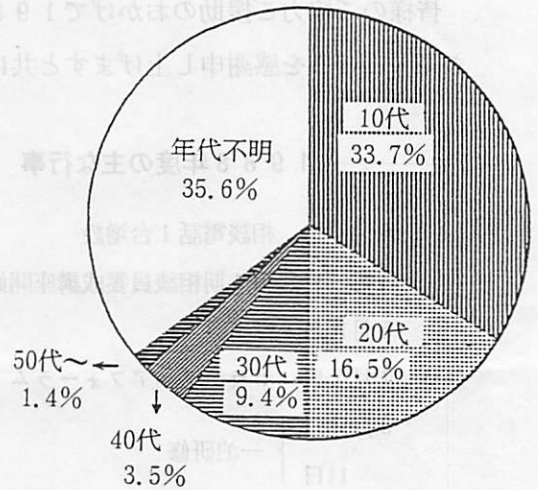
## 性に悩む若い男性

男性利用者の50%は10代～20代の若者たちで、30代以上の男性からの相談は15%程度となっています。

1番多い10代の相談の中では「性」の問題が65%と多く、性に関する情報が氾濫している現代社会の中で、いかに多くの若者たちが性に対する悩みを持っているかを知ることができます。

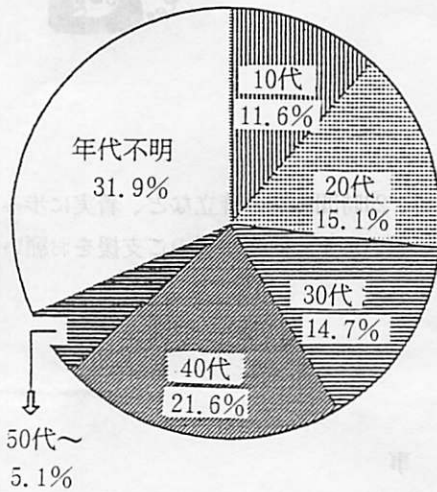
年代別相談件数の割合

—男性—



年代別相談件数の割合

—女性—



## 多様な女性の悩み

女性利用者のおよそ5%が50代以上で残りが10代～40代までの年代で占められています。

相談内容も多岐にわたっており、家庭や職場、地域社会の中で、女性の悩みが多様になっていることを示しています。

警察庁から発表された1988年の自殺者は、『23,742人』でした。この数字は昨年より700人余り減ったものの、まだ交通事故者の2.4倍にもなっています。

心痛む『自殺』をなんとか未然に防ぎたい……「いのちの電話」はこのように願って毎日活動しています。

## 1988年度 事業報告

皆様のご協力ご援助のおかげで1988年度もいのちの電話活動を続けることができましたことを感謝申し上げますと共に、本年度の事業報告をさせていただきます。

### 1988年度の主な行事

- 4月1日 相談電話1台増設
- 4月19日 第4期相談員養成講座開始
- 5月16日 理事会
- 7月2日 ボランティアフォーラム
- 9月10日 } 一泊研修
- 11日 } 一泊研修
- 9月19日 理事会
- 12月10日 親睦会
- 2月3日 理事会
- 2月27日 チャリティーコンサート



### 理事会報告

1988年は、センター改装・電話台数の増設を終え、4月1日より2台の電話で相談電話を受け始めました。

財政基盤の安定を目指した社会福祉法人化は、基金作りが一つの目的ですが、豊田寿子理事を委員長とした基金委員会は名古屋財界の有志の方々のご協力によって1,200万円を積み立てることができました。もう一つの目的である運営費に、については賛助、後援会費としてご支援下さる方々が固まり、財政基盤となっています。1989年度からは愛知県共同募金会から配分金の受配団体に指定されましたことは誠に心強い力であります。

また、事務局で開局以来、活躍された杉山郁子(旧姓中野)さんが退職することになりました。

来年度は創立5周年を迎えます。社会福祉法人格

の認可、24時間体制の確立など、着実に歩みを進めたいと思います。何卒一層のご支援をお願い申し上げます。

### 理事

|        |           |
|--------|-----------|
| 相場 信夫  | 中堀 仁四郎    |
| 笠原 嘉   | 長岡 利貞     |
| 川原 恵   | 西沢 信正     |
| 川原 啓美  | ピーター・チョーク |
| 木本 精之助 | 渡辺 宜親     |
| 小山 勇   | 監事        |
| 塚田 道生  | 内河 恵一     |
| 豊田 寿子  | 志村 真人     |

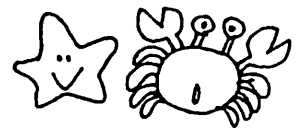
## 財務委員会報告

自殺を未然に防止することに役立つ「電話による相談」の充実と発展の手段は、相談設備の拡充と、相談員の数的増強、相談員の研修向上がその内容と考えられます。そしてこの「電話相談」という奉仕活動が盛んになればなるほど経費が増大することは当然のことです。これらの経費が篤志の方々の賛助、寄付、助成等により支えられている以上、奉仕活動の拡大、充実への願いは、賛助会員の増強、寄付者の開拓を伴わないかぎり、大きな困難に直面することになります。財務委員会の任務は、「いのちの電話」の経済的側面をいかに整えるかにあるといえましょう。

しかし乍ら、開局以来3ヶ年の「名古屋いのちの電話」の財政状況は 奉仕活動の拡大とそれに伴う経費の増加をまかなうには、奉仕者、後援者の年々の増加にもかかわらず、毎年後追いの状態で、苦しいやりくりを余儀なくされているのが実情であります。財政基盤をはかることが「いのちの電話」の当面の最大課題と考えて、年々賛助会員の増強を意図して努力が重ねられて来ました。名古屋いのちの電話の運動の恒久的な継続発展のためには、この際開局以来の悲願ともいえるべき社会福祉法人化を実現して財政的にも局面の打開をはかることが得策と考えられます。そのために目標を3,000万円と定めて、基金募集を実施することが1988年度の大きな課題でした。

豊田寿子理事を委員長とする基金委員会は、財務委員会開催の都度、併せて開催され、1988年3月以降基金募集が進められ、現在なお継続されています。基金募集は、名古屋商工会議所の協力を頂いて、県下、大小の企業・法人より広範囲の支援を頂くことが意図され、委員長以下委員が手分け分担して、会社・法人の訪問依頼の働きが進められ、1989年3月までに197法人より1,211万円の寄付が寄せられています。

委員会では、この基金募集の期間を更に1989年6月まで延長して継続する一方、基金募集と並行して、社会福祉法人設置の手続きを急ピッチで進めることをはかっています。前年度以来、名古屋いのちの電話の会計は、社会福祉法人会計基準に沿って整備処理され、社会福祉法人化に向かって事務的にも前進を示しており、相談実績の進展とあわせて、愛知県当局との折衝も本格的に進行するものと思われます。社会福祉法人として認可が得られ、更に広範囲に地域社会よりの認識と支援が受けられるよう願っています。  
(財務委員長 木本精之助)



名古屋いのちの電話は公的補助を受けないボランティア運動です。私たちの活動が24時間体制を実現し、社会福祉法人として認可されるためには、さらに多くの方々のご協力とご援助が必要です。午前10時～午後10時まで受け付けている相談電話2台を維持していくための資金は年間1700万円です。どうぞ「名古屋いのちの電話」の資金援助にご協力下さい。

<郵便振替> 名古屋いのちの電話 名古屋 1-53758

<銀行振込> 名古屋いのちの電話 東海銀行大津町支店 (普通)

## 運営委員会報告

名古屋いのちの電話の運営のために、多くの方々のご協力いただきましたことを心から感謝申し上げます。運営委員会の働きはまだ十分なものとは言えませんが、新しい方も加わっていただき、委員会の活動内容も少しずつ変化しています。いのちの電話全体の活動の窓口となり、接点としての役割を果たすことが出来れば幸いです。

1988年度は11名の委員で構成し、毎月1回、委員会を開催いたしました。また特別事業の企画とその実施に当たっては、例年のように多方面の方々の手伝って下さいましたことを感謝いたします。

委員会の構成面での変化では、昨年からの委員会に世話人の代表が加わったことです。電話相談員から選ばれた、世話人会の代表2名が加わることに、相談員の抱えている問題や、いのちの電話としてのあり方を具体的に上げることが出来るようになったことは前進だったと思います。

また、昨年度の「フォーラム」を契機に「名古屋いのちの電話」の組織や運営に、相談員の方々が全体の一員として、どの様に関わり、意志の相互伝達をどの様に円滑に進めることが出来るかについて、真剣に話し合うことが出来ました。問題点を整理して更に話し合いの機会を持った結果、関係者の方々のご努力により、多くの点で相互理解を進めることが出来たことは大きな収穫でした。

運営委員会の活動の主なものを右にまとめました

のでご参照下さい。

### 昨年度の主な活動と内容

#### 1. 組織・運営

世話人の代表が委員に加わった。相談員の意見を反映し、参加できる運営について話し合った。また、副委員長を置くこととし、今後制度的に位置づけを明確にして行くことになった。

#### 2. チャリティーコンサートの開催（2月27日）

出演者の都合で開催が遅れたが、チェリッシュにご協力いただいた。収益は当初の見込みに達しなかった。収益金は、基金のため用いることが出来るように考慮していただく。

#### 3. フォーラムの開催（7月2日、土）

内容を検討し、実施した。また、そこで出された意見を具体化するため、アンケートを実施し、整理した上で個別に検討、具体化した。

#### 4. 宗教者による支援活動の実施（10月15日）

栄周辺と名駅前の5ヶ所で、仏教と基督教の宗教家、信徒による支援活動といのちの電話の広報活動を行った。約50人の参加があり、6000枚のチラシを撒くことができたことは大きな収穫であった。

#### 5. 講演会の開催準備

年度内に開催することが出来なかったが、89年度（6月20日）に開催できるよう準備した。

（運営委員長 塚田道生）

## 電話相談員 養成講座 第5期生募集

|      |   |
|------|---|
| 期 間  | 1989年9月14日～1990年9月末の毎週1回定められた日<br>時間:午後6時15分～午後9時 |
| 受講資格 | 20歳～60歳   |
| 募集定員 | 32名   |
| 申込締切 | 1989年8月31日(木)                                     |

※お問い合わせ、及び募集要項をご希望の方は、事務局まで

〒461-91 名古屋東郵便局私書箱257号

名古屋いのちの電話 TEL <052>971-5181

## 訓練委員会報告

多くの関心をもって下さる方々の支援を得て、名古屋いのちの電話の活動は年々充実してきたことを感謝しています。今年度の訓練委員会関係の活動を報告させていただきます。

### 第4期相談員養成講座：

37名の受講者を対象に、1988年の4月19日から約1年間の予定で実施され、1989年の5月9日に26名の方々がいのちの電話の相談員としての認定を受ける。この間、受講者は毎週1回のペースで、2カ月間の人間関係基礎訓練、更に3カ月間のロールプレイによる相談訓練をうけ、仮認定のあと11月からはスーパービジョンによる相談訓練の課程を経てこられた。自分自身のあり方をも問われる相当厳しい訓練であった。多くの時間と労力を投入してこの課程を終えられた方々にねぎらいの言葉を送りたいと思う。この方々が新風を吹き込んで下さることにより、名古屋いのちの電話の活動が更に充実することを期待している。

ちなみに第3期養成講座までに、他のいのちの電話から移籍してこられた方を加えて169名が相談員の認定を受けた。1988年度は127名が名古屋いのちの電話の電話相談員として活動した。

なお、第5期相談員の養成講座の受講生募集は1989年の後半に行われる予定。

### 継続研修：

これは電話相談の質の向上と相談員の相互援助による成長を目的とし、相談員の必修の研修である。1988年度は、1グループ10名前後、12の研修グループで行われた。「電話相談の実際—それぞれが直面する問題をめぐって—」「精神障害と電話相談」「いのちの電話とは」など直接的なものから、「箱庭療法」「人間関係体験学習」「感受性訓練」「組織の行動科学」「トランザクショナル・アナリシス」「カウンセリングの技法と実際」等のテーマが取り上げられた。受身ではなく、自発的に訓練に参加す

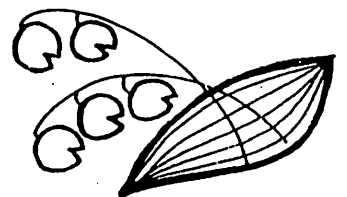
るのが継続研修の主旨であるということから、相談員の有志で構成される「継続研修を考える会」が計画実施においてイニシアチブをとり、訓練委員会は講師の斡旋などのお手伝いをした。1988年も同じ方式で実施される。新しいグループとして「憩いの広場」「ソーシャル・ワークを学ぶ」「事例研究」などがある。

### ケース研究会：

継続研修とは別に、電話相談での相談員のあり方を相互に検討し、研究するために、今年度は8回行われた。出席者は、毎回20名程度であった。

名古屋いのちの電話は、時間、労力、財を提供し、現代社会の様々な問題に直面し、悩んでいる人、孤独に苦しむ人々と電話を通して かりを持ち、励ましあい、共に生きることを確かめていこうとするボランティアの人びとの集まりです。電話というメディアの持つ特長と限界を踏まえて、“ボランティア”“素人”の相談員として、専門の相談機関やカウンセラーが持ち得ない味を持たなければなりません。それぞれが初心に返り、自分の在り方を問い相手と共にあるための相談技術を研ぎ自らの心の健康を守る自己訓練をしていくことが必要だと思います。電話相談の場のみでなく、お互いが、生活している地域や職場で「よき隣人」となっていきたいと思します。

なお、名古屋いのちの電話の研修には約50名の講師の先生がそれぞれの専門を生かし、ご協力下さっています。  
(訓練委員長 中堀仁四郎)







## ご援助ありがとうございます

1989年1月1日より3月31日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共に報告申し上げます。

名古屋いのちの電話  
理事長 相馬信夫  
財務委員会

＝個人会員＝（順不同・敬称略）

### 賛助会員（A）

|       |       |        |        |       |       |
|-------|-------|--------|--------|-------|-------|
| 小川 義雄 | 石黒 豊重 | 澤村 修   | 河村 久子  | 中野 広子 | 法用 渉  |
| 松本 勝  | 島 しづ子 | 平岡 義和  | 中堀 仁四郎 | 廣野 善久 | 丹羽 三信 |
| 西原 新一 | 山口 幸男 | 田中 健次郎 | 長岡 利貞  | 西田 史朗 | 西村 信子 |
| 伊藤 倫子 | 植松 従爾 | 片岡 満雄  | 佐々木 武昭 |       |       |

聖霊病院川名山聖霊修道院 弥富カトリック教会

### 賛助会員B

|       |       |        |       |       |        |
|-------|-------|--------|-------|-------|--------|
| 佐々木 敏 | 前田 正子 | 伊藤 静子  | 山本 誠  | 加藤 満  | 長谷川 浪江 |
| 長津 栄  | 島田 吉枝 | 津村 俊充  | 宮木 靖子 | 青木 明子 | 福田 忠子  |
| 竹村 絹子 | 石垣 弘子 | 岳野 フサエ | 石垣 蛭樹 | 荻原 孝子 | 加藤 倫子  |
| 児玉 光雄 | 浅見 方貴 | 安田 元輔  |       |       |        |

真宗大谷派養念寺 金城教会青年会

### 賛助会員C

|        |        |        |        |        |       |
|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 熊谷 行雄  | 竹原 とよ子 | 島田 明子  | 中川 洋子  | 橋本 良男  | 杵山 達雄 |
| 戸田 伊助  | 常富 佳子  | 藤谷 道代  | 松田 一路  | 能登 みい子 | 水谷 敦子 |
| 鈴木 ゆかり | 矢吹 三千代 | 荒木 節子  | 太田 美恵  | 後藤 茂子  | 松井 くら |
| 安田 ミチ子 | 春日部 道  | 植木 貞次郎 | 小川 マリ子 |        |       |

ドミニコ会聖ヨゼフ修道院

＝法人会員＝

株式会社三光堂

＝寄付＝

|        |       |        |         |        |       |
|--------|-------|--------|---------|--------|-------|
| 森 久つえ  | 廣重 義次 | 家田 足穂  | 岩田 鉦一   | 水野 享好  | 服部 武雄 |
| 内川 正邦  | 鷗野 秋信 | 日江井 昭三 | 高嶋 剛三郎  | 山田 久子  | 楠 忠雄  |
| 相馬 康人  | 浅野 稔  | 浜本 孝子  | 桜井 房博   | 初井 英夫  | 斉藤 延枝 |
| 山崎 百合子 | 中村 三郎 | 村瀬 信子  | 佐々木 さと子 | 草野 恵美子 | 片岡 満子 |
| 清 りつ子  | 小川 義雄 | 加藤 美佐江 | 今井 文子   | 久米 淑子  | 勝田 トヨ |
| 仙敷 真代  | 山本のぶ子 | 小栗 正彦  | 浅見 方貴   | 島田 明子  | 平岡 義和 |
| 島田 吉枝  | 長岡 利貞 | 坂上 幹男  | 藤吉 康司   | 村松 正義  | 山本 澄子 |
| 川越 幸   | 匿名    |        |         |        |       |

日本福音ルーテル希望教会  
高蔵寺ニュータウン教会婦人会  
白百合の会代表三上正子  
社会福祉法人聖霊病院  
カトリック東山教会  
長浦カトリック教会  
日本キリスト教団名古屋教会  
小牧カトリック教会  
キリスト新古有伝道所松田一路  
キリスト教団岡崎茨坪伝道所  
日本基督教団名古屋西教会

聖霊病院  
日本キリスト教会名東教会婦人会  
岩田電算機会計事務所  
学校法人金城学院  
日本基督教団尾張一宮教会  
安田由久家庭集会同  
聖ドミニコの宣教修道女会岡崎修道院  
日本キリスト教団敦賀教会  
祈の家ヘルモン荘松田一路  
多治見カトリック教会  
日本基督教団南山教会

名古屋YMCA  
日本基督教団岡崎教会  
一宮聖光教会  
在日大韓基督教名古屋教会婦人会  
日本キリスト教団名古屋東教会  
名古屋桜山教会  
天白伝道所渡邊徹朗  
カトリック金沢教会  
財団法人名古屋YWCA  
日本キリスト教団豊山教会  
豊橋カトリック教会

日本聖公会中部教区伝道所  
日本基督教団鳴海教会  
一宮カトリック教会  
日本キリスト教団愛知教会婦人会  
財団法人名古屋キリスト教育年会

安田キリスト教会牧師内村徹母耳  
日本基督教団枇杷島教会  
日本基督教団名古屋北教会  
名古屋ロータリークラブ

日本キリスト教団広路教会  
日本基督教団刈谷教会  
港カトリック教会  
幼き聖マリア修道会



## 第15回自殺予防シンポジウム 名古屋開催について

### 〈自殺予防学会の歴史〉

日本における自殺研究は1900年（明治33年）東大の精神科教授、呉秀三にはじまるといわれています。しかし、その後の自殺研究は誤解と偏見に妨げられて遅々として進みませんでした。いわんや自殺を予防しようとする実践活動は、長い間社会から注目されることはありませんでした。

ここで次の数字をご覧ください。警視庁の発表によると、1987年の交通事故死者数は、9,347人、それにたいし自殺者は25,524人にのぼります。自殺者は交通事故死者の何と2.5倍もあるのです。しかし、交通事故防止対策に注がれるエネルギーや予算に比べれば、自殺予防へのそれはゼロにも等しいというのが現状です。

この問題について、わが国ではようやく1970年ころから反省され、東京を中心に研究会が開かれ、それが1979年には日本自殺予防研究会となり、さらにこれが発展して、1983年には自殺予防学会（理事長加藤正明）となりました。この学会は、自殺はもとより、あらゆる自己破壊活動を防止するための研究・実践及び啓蒙活動を行うことを目的としています。この会員は研究者・医師・教師・看護婦・会社員・主婦など、自殺予防に関心のある市民なら誰でも入ることができます。名古屋いのちの電話も1988年に団体会員として加入しました。

### 〈名古屋開催について〉

この学会は「自殺予防と危機介入」という機関紙を年1回刊行すると共に、年1回、各地で「自殺予防シンポジウム」を開催し、自殺予防の啓蒙活動を行ってきました。

この学会は発足当時から、いのちの電話とは深いつながりを持っています。電話相談の実践を通じて学会に問題提起され、また、学会から電話相談について厳しい意見や提案がされてきました。この両者は相たずさえて発展してきたといつてよいでしょう。

さて、自殺予防学会から、名古屋いのちの電話と共催で「自殺予防シンポジウム」を名古屋で開催するよう要請を受けました。これを受けて1988年9月理事会でこれを受諾し、1990年10月開催をめどに、実行委員会を組織することとなりました。名古屋いのちの電話としては、社会福祉法人認可と、開局5周年を記念して、この会を成功させ、自殺予防と電話相談の意義を更に広く社会に訴えたいと考えています。



—第2回公開講演会終る—

去る6月20日(火),午後3時から栄の名古屋中央教会で、第2回名古屋いのちの電話公開講演会が開かれました。講師は、日本における精神医学の中心的指導者の一人、笠原嘉先生(名古屋大学医学部教授・名古屋いのちの電話理事・愛知県精神保健協会理事)。「生きがいの問題をめぐって」の演題のもとに、一般市民、いのちの電話相談員約230名を前に、独特の語り口で、精神健康の基本についてお話ししました。電話相談員にとっては日ごろ当面する問題について多くのヒントが与えられました。好評に応じてまた新しい企画を考えています。



名古屋いのちの電話日誌

- |    |        |                         |
|----|--------|-------------------------|
| 1月 | 9日(月)  | 運営委員会                   |
|    | 14日(土) | 近畿・東海ブロック主事会<br>(京都)    |
|    | 23日(月) | 世話人会                    |
|    | 25日(水) | 継続研修を考える会               |
|    | 30日(月) | 訓練委員会                   |
|    | 31日(火) | 財務委員会                   |
| 2月 | 3日(金)  | 理事会                     |
|    | 20日(月) | 運営委員会・訓練委員会             |
|    | 23日(木) | 近畿・東海ブロック<br>統計担当者会(京都) |
|    | 27日(月) | チェリッシュ<br>チャリティーコンサート   |
| 3月 | 13日(月) | 運営委員会・訓練委員会             |
|    | 25日(土) | 登録更新の研修会                |
| 4月 | 7日(金)  | 近畿・東海ブロック<br>統計担当者会(京都) |
|    | 17日(月) | 運営委員会・訓練委員会             |
|    | 24日(月) | 認定委員会                   |



【MEMO】

何かと忙しい毎日。“ゆとり”を大切に、とは思いつつ、つつい忙しい方に足が向かってしまう今日このごろ。遊びごころを忘れないようにしたいものです。遅れに遅れた年度報告号。御一読を感謝申し上げます。1989年度も、何卒宜しくお願いいたします。

1989.初夏

名古屋いのちの電話

〒451-91 名古屋東郵便局私書箱 第257号

事務局 ☎052-971-5181

郵便振替口座 名古屋 1-53758

1989年7月1日 発行

発行人 相馬 信夫

編集人 広報委員会